

第1章 平成10年度山口大学構内遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市（吉田・白石構内）、宇部市（小串・常盤構内）、光市（光構内）の県内各市に分散している。各構内には、縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての複合集落遺跡として著名な吉田構内をはじめとして、旧石器時代の遺物が出土する小串構内など、周知の遺跡が埋存している。山口大学埋蔵文化財資料館は学内共同利用施設として、これら各構内において現状変更を伴う諸工事に対し、埋蔵文化財保護の立場から調査・研究を行っている。埋蔵文化財の調査を必要とする場合は、工事地域周辺での既往の調査結果や工事の内容、埋蔵文化財に対する影響の度合いなどを勘案し、埋蔵文化財資料館運営委員会の議を経て、事前・試掘・立会の三種の方法によって調査を実施している。

平成10年度は事前調査3件、試掘調査2件、立会調査9件の計15件の調査を実施した。第2学生食堂の増築及び改修工事に伴う立会調査については、同事前調査、教育学部附属山口小学校給食室改修工事に伴う立会調査については同試掘調査と合わせて報告する。

Tab.1 平成10年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	面積(m ²)	調査期間	調査担当	挿図番号
事前	宇部市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸河内線)	小串		253.1	4月23日～7月7日	村田・金子	Fig. 89 No. 31
	宇部市土地区画整理事業(柳ヶ瀬丸河内線・ 医学部敷地西側特殊道路)	小串		381.2	3月1日～5月25日	村田・金子	Fig. 89 No. 32
	第2学生食堂の増築及び改修工事	吉田	N・O-15	716.3	1月18日～28日、 2月9日～5月20日	田畑	Fig. 88 No. 210
試掘	教育学部附属養護学校給食室改修工事	吉田	C-21	12.3	7月8～15日	田畑	Fig. 88 No. 211
	教育学部附属山口小学校給食室改修工事	白石		5.9	7月1～7日	田畑	Fig. 91 No. 17
立会	九田川河川局部改良工事	吉田	E・F-14, F-13	180	10月6・15日	村田	Fig. 88 No. 212
	基幹環境整備工事(バリカー新設)	吉田	H-15, I・J-20, O-16・18, L-22	3.4	11月20・24日、 3月15日	村田	Fig. 88 No. 213
	農学部動物用焼却炉改修工事	吉田	Q-18	53	1月18日	村田	Fig. 88 No. 214
	基幹環境整備工事(外灯新設)	吉田	L-17～19, M・N-18	4	2月26日	村田	Fig. 88 No. 215
	理学部スロープ新設工事	吉田	M-18	16	3月2日	田畑	Fig. 88 No. 216
	ステンレス回転モニュメント新設	吉田	M-13・14	27.6	平成11年 4月6・12日	田畑	Fig. 88 No. 217
	第2学生食堂の増築及び改修工事	吉田	N・O-15	250.9	平成11年 5月6・11日	田畑	Fig. 88 No. 210
	教育学部附属山口小学校給食室改修工事	白石		9.9	7月28日	田畑	Fig. 91 No. 17
教育学部附属光学校給食室改修工事	光		5.2	7月31日	田畑	Fig. 93 No. 18	

吉田構内の調査 (本部、人文・教育・経済・理・農の各学部：山口市大字吉田 1677-1、教育学部附属養護学校：同吉田 3003 所在)

事前調査 1 件、試掘調査 1 件、立会調査 7 件を実施した。

第 2 学生食堂の増築及び改修工事に伴い、事前調査を実施した。調査の結果、掘立柱建物跡 7 棟、溝 12 条、土坑 16 基、不明遺構 4 基、ピット 383 基を検出した。出土遺物のない遺構もあるが、遺構の時期は埋土の色調から古代以前、中世、近世以降に大別される。縄



Fig.1 山口大学吉田・白石構内位置図

文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器などの土器類をはじめ、石器（石鏃、石錐、砥石、敲石、台石、石鋏、石斧、石庖丁）、石核、剥片、用途不明石製品、鉄製品、鉄滓等が出土した。

今回の調査で注目されるのは、吉田遺跡で初めて古代・中世の掘立柱建物跡を検出したことである。また、統合移転時の調査区（第 I 地区 E 区）で検出された古代の溝状遺構の延長部を検出し、同溝の長さは約 49.2m であることが判明した。この溝は同溝の東側で検出された掘立柱建物等の施設を区画するための溝であったとみられ、何らかの官衙的施設の存在を示唆するものであろう。

教育学部附属養護学校給食室改修工事に伴う試掘調査では、土坑 2 基、ピット 20 基を検出した。このうち、土坑 2 基、ピット 2 基が弥生～古墳時代で、他は近世以降とみられる。弥生時代以降の遺構面形成層から縄文土器、土坑から弥生土器、土師器が出土した。

立会調査では、第 2 学生食堂敷地を除き顕著な遺構・遺物は検出できなかった。



Fig.2 山口大学小串・常盤構内位置図

白石構内の調査（教育学部附属山口幼稚園：山口市白石三丁目1-2、同小学校：白石三丁目1-1、同山口中学校：白石一丁目9-1所在）

試掘調査1件、立会調査1件を実施した。教育学部附属山口小学校給食室改修工事に伴う試掘調査・立会調査では顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

小串構内の調査（医学部、同附属病院、医療技術短期大学部：宇部市南小串1丁目1-1）

事前調査2件を宇部市教育委員会と埋蔵文化財資料館が合同で実施した。

宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う事前調査では、A～Cのトレンチを設定して調査を行い、近世～近代の水田関連の遺構を検出した。また、Aトレンチでは現地地表下約1.3mで検出した第14層（暗灰黄青色粘砂）で土器集中部が確認され、少数の縄文土器と多数の弥生時代終末期～古墳時代前期の土器が出土した。このほか調査区からは瓦質土器、土師質土器、陶器、磁器、石核、剥片等が出土した。

宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線・医学部敷地西側特殊道路）では、D～Fのトレンチを設定して調査を行った。Eトレンチでは、現地地表下約1.3mの青灰色粘砂で全形がうかがえる鐘崎式土器深鉢が1個体分出土した。上記Aトレンチと重複するFトレンチでは、近世～近代の水田に関連する溝を1条検出したほか、現地地表下約1.3m以下で検出した第6層（青灰色粘砂）、第7層（暗灰黄青色粘砂）から少数の縄文土器、須恵器、瓦質土器と多数の弥生時代終末期～古墳時代前期の土器が出土した。これらは、河川等の流れ込みによる二次堆積とみられる。弥生時代終末期～古墳時代前期土器にはまとまりがあり、遺跡

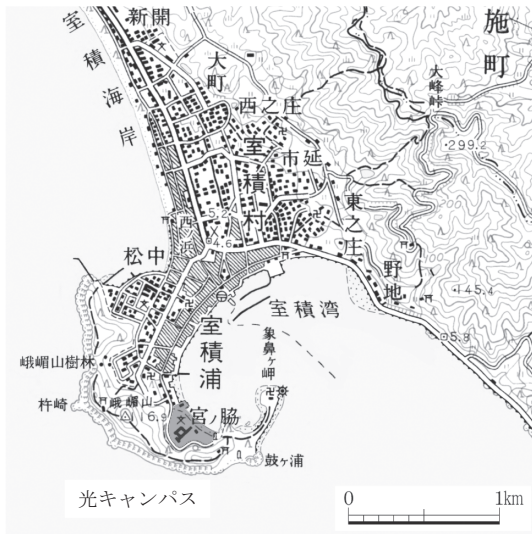


Fig.3 山口大学光構内位置図

北方の丘陵上に当該期の集落遺跡が存在した可能性が高まった。このほか調査区からは、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器、碇石、楔形石器、剥片、鉄製品等が出土した。

常盤構内の調査 (工学部：宇部市常盤台2丁目

16-1、尾山宿舎：同上野中所在)

当該地で掘削を伴う開発等工事は計画されなかった。

光構内の調査 (教育学部附属光小学校、同光中

学校：光市大字室積浦1-1所在)

立会調査1件を実施した。教育学部附

属光学校給食室改修工事に伴う立会調査では、顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

なお、平成10年度調査の報告にあたり、既刊の年報に記載した各構内調査区位置図、平面図、調査面積、出土遺物の時期等を訂正した。また、小串構内においては年報XX、XXIに掲載した構内旧境界線、構内現境界線、調査区位置図の縮尺、光構内においては構内境界線、方位を訂正した。このほか、既刊の年報に記載した山口大学埋蔵文化財資料館規則の一部を訂正した。